

【計画名：福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R2			R3			R4		R5		R6	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
目標① 来館者数増加(人)	60,000	60,416	101%	90,000	90,471	101%	120,000		130,000		140,000	
目標② 会津来訪者の滞在時間の延長(人)	230,000	792,325	344%	600,000	753,085	126%	1,200,000		1,300,000		1,400,000	
目標③ 外国語ユーザー来館者数増加(人)	100	112	112%	200	69	35%	500		1,500		4,000	
目標④ 来館者満足度向上(%)	—	—	—	20	33	165%	30		40		50	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

(分析)
・目標① 前年度より増加して目標値に達した。なお文化観光推進事業を含めて博物館が主催した館外での事業や学芸員による講座等の参加者も来館者数(利用者数)としてカウントしている。
・目標② 来訪者の滞在時間の長さの指標のひとつとなる東山温泉・芦ノ牧温泉、会津若松市内旅館・ホテルの宿泊者数の合計は目標値を上回った。(会津若松市で公表しているデータが年度でなく年単位の集計のため、令和3年1月~12月の宿泊者数を採用)。
・目標③ 目標値を大幅に下回った。新型コロナウイルス感染症の影響による訪日外国人旅行者数の減少が要因と考えられる。
・目標④ 事業1-③、1-④、4-②の参加者アンケートの満足度・おススメ度の高かった人数の割合は平均すると62%と高かったが、3月に実施した来館者アンケートにおいて「とてもおススメ」と回答した人数の割合は33%と分かれたため、厳しい数字を採用した。
(評価)
・目標③を除いて、概ね目標を達成できた。目標③については、新型コロナウイルス感染症の影響により達成できなかった。

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R2	R3	事業類型毎の実績額	
事業1-①	3エリア周遊促進のための文化資源高き上げ事業	—	3周遊ストーリー作成・文化資源撮影を実施		
事業1-②	3エリア周遊促進のための展示強化事業	—	部門展示室(歴史)展示強化を実施		
事業1-③	3エリア周遊促進のための体験型プログラム提供事業	—	武家・ものづくり体験プログラムを実施	4.8百万円	
事業1-④	若松城下まちなか連携事業	—	企画展に合わせた連携展示・イベントを実施		
事業2-①	3エリア周遊促進のための展示強化事業-情報通信技術活用展示	—	展示計画を検討		
事業2-②	福島県立博物館多言語化事業	—	館内案内・展示室解説等の多言語化を実施	16.7百万円	
事業2-③	3エリア周遊のためのツアー造成事業	—	ツアーコンテンツ案を検討		
事業3-①	「会津のSAMURAI文化エリア」周遊のためのサイン強化事業	—	サイン案を検討		
事業3-②	来館者利便性向上事業-情報通信環境整備	—	WiFi整備・キャッシュレス化を実施	4.6百万円	
事業3-③	来館者利便性向上事業-環境整備	—	観覧支援システムの制作・試行		
事業4-①	雪国ものづくりレストラン	—	トータルデザイン・内装整備等を実施	5.6百万円	
事業4-②	雪国ものづくりマルシェ	—	マルシェ2021秋を実施		
事業5-①	会津の文化資源国内外プロモーション事業	—	プロモーション計画作成を準備	0.0百万円	
事業5-②	3エリア周遊促進情報発信事業	—	コンテンツ案を検討		
事業6-①	3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備	—	部門展示室(歴史)整備と体験学習室ベビーケアルーム設置を実施	9.0百万円	
各年度ごとの実績額→			0.7百万円	40.0百万円	40.7百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

(分析)
・事業1-①は周遊ストーリーを作成したが、事業で活用する中で、来訪者や利用者のニーズに応じたものにバージョンアップする必要がある。
・事業1-②、④、6-①で実施した展示室整備は年度末に完了したので、活用効果の検証は次年度以降となる。
・事業1-③はプログラム6回を計画通り実施。アンケート結果は好評価だが、県内参加者が大多数を占めている点は課題。
・事業1-④は市内4ヶ所と連携して展示・イベントを計画通り実施。アンケート結果は好評価だが、県内参加者が大多数を占めている点は課題。
・事業2-②は館内案内・展示室解説等の多言語化を計画通り実施。掲示が年度末になったため効果の検証は次年度以降となる。
・事業3-②は工事を計画通り実施。
・事業4-①は内装整備を計画通り実施。
・事業4-②はマルシェ1回を計画通り実施 アンケート結果は好評価だが、県内参加者が多い点は課題。
(評価)
・事業はほぼ計画通り実施できた。
・事業1-③、1-④、4-②の内容は、アンケート結果による好評価。コロナ禍の影響もあるが、県内参加者が大多数を占めていて、県外からの来訪者を呼び込めていない点は今後の課題。
・年度末に完了した事業が多く、整備等による効果の検証は次年度以降となる。

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

要件	↓文化観光拠点施設名
	福島県立博物館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	R3年度の事業では、体験型プログラム実施の際に会津木綿や居合道など関連する文化資源の情報を丁寧に紹介し、改裝したレストランでは、使用した会津木綿等に解説を付けた。木製のベビーケアルームも、伝統的な技術を取り入れた工法で制作したことを解説パネル等で表示した。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	R3年度は、3周遊を促進する展示計画「三の丸アベニュー」の構想をつくり、その中で情報技術を活用して、若松城跡の遺構を再現させる映像(三の丸エレベーター)を制作する準備を行った。
・外国人観光客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	R3年度は、総合展示室の展示解説等を英語、中国語(簡体字・繁体字)で多言語化し、一部はパネルやデジタルサイネージを用いて掲示した。観光庁のガイドラインに則して、業者と担当学芸員との打ち合わせ・チェックを綿密に行い、適切な外国語の解説・紹介になるように努めた。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	R3年度は、会津文化観光事業連絡会議を開催するとともに、共同申請者の会津若松観光ビューローが地域DMOに登録されたことから、地域DMOのワーキンググループの会議や打ち合わせ等を重ねて、本プロジェクトを進めた。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	会津若松市、会津若松観光ビューローから会津地域の観光動向に関するデータや分析結果の提供を受けた。福島県観光物産交流協会からは、福島県全体の観光動向に関するデータや分析結果の提供を受け、また成果品の取材や情報発信など広範囲での協力を得た。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	ツアー造成等については、地域DMOのワーキンググループに参画して、PDCAサイクルに従ったツアー造成に取り組んでいる。事業全体についても、KPI・PDCAサイクルを確立させるように留意している。

⑥観光関係者(DMOなど)からの評価

(会津若松観光ビューロー：地域DMOからの評価)
・会津若松市の文化観光推進については、会津若松市や会津若松商工会議所及び一般財団法人会津若松観光ビューロー、そして福島県立博物館で協議会を形成し、推進に努めていたものだが、本計画の実施により、民間事業者を含めた意識の醸成と巻き込みが進み、地域の文化観光の受け入れ態勢の整備や一体的なプロモーションにつながっているなどの効果があった。
・本プロジェクトによって福島県立博物館の多言語化が進められたことは、今後期待される訪日外国人観光客の反転攻勢に向けた受け入れ体制が大きく進んだと考えている。このことは福島県立博物館・若松城エリア全体の面的な体制整備と訴求効果の向上と考えており、今後はこのエリアをゲートウェイとして関係機関と連携しながらプロモーションを強化し誘客につなげていきたい。

⑦今後の改善の方向性

・文化施設への再投資を今後進めるためには、物販等に関する県の規制やしくみを変更しなければならない点があり、大きな課題となっている。
・文化観光推進支援事業(コーチング)を通じて課題の洗い出しを行っており、とくに事業1-③、1-④、2-③、4-②等が、収益の再投資によって自走できるようにするためのしくみを考えなければならない。
・各事業の効果を把握するため、アンケートの対象を事業の参加者から広く来館者・来訪者に拡大し、調査の方法についても効果的に改善する。